

「たしばなふみ市議 代表質問③」 松江市で大地震・災害対策の拡充を

たしばなふみ市議は2月議会の代表質問で6項目質問しました。その内「大地震 防災減災、老朽化対策」について報告します。

1月6日松江市内で震度5強を観測する大地震がありました。たしばな市議は、一昨年の能登半島地震以降、松江市の地震対策について何度も議会でも質してきました。改めて以下の6点を質しました。

災害被災者支援拡充を

①被災者の支援策が少ないために被害を申し出ない方が多いと報道されている。被災者生活再建支援制度は全壊、半壊、準半壊の基準があるが、見舞金も全壊で5万円、半壊で3万円、床上浸水で2万円であり、屋根瓦の損害や床下浸水には何の支援もない。支援策の拡充を求める。

②住宅耐震化について、能登半島地震でも多くの木造家屋が倒壊し課題となっている。木造住宅耐震改修補助事業や、耐震診断の補助事業の活用状況、市民へのさらなる周知を求める。

木造住宅耐震化対策 学校など公共施設耐震化 干拓地の液状化注意喚起

③今回の地震で多くの学校施設に損害があった。公共施設、学校施設の耐震化や、長寿命化の進捗はどうか。

④干拓地の液状化について、国交省の重ねるハザードマップ「地形区分に基づく液状化の発生傾向図」によると、松江市内は東出雲町や竹矢地域、大橋川周辺、宍道湖周辺、そして大海崎堤防や森山堤防の危険度が高いとされている。市民周知へハザードマップ作成等を国の支援も求め行うよう求める。

⑤今般の大地震で、多くの市民が避難行動について改めて考える機会となった。自治会等で要支援者の安否確認を工夫して行ったと聞く。自主防災組織などで、今回の地震の教訓を伺う。



たしばなふみ
市議会議員

保育園子どもの命まもる 対策へ支援拡充を

⑥子どもの命を守る保育園の防災対策について、職員の皆様から当日の様子や課題を聞いた。大雪や原子力災害との複合災害ではとても安全な避難はできないと切実な声も聞いている。現在、県から原動力防災用として水と粉ミルク、ビスケットが配布されている。子どもの育ちに即した食料や防災用品を購入し月1回の訓練で慣れておくことが重要との声がある。今般高齢者施設へ備蓄品購入費用の助成が予算化された。保育施設に対しても防災備蓄品や防災用品購入助成を求める。



樋野伸一市議 一般質問② 松江市の防災対策について

樋野伸一市議の2月議会一般質問3項目のうち、「松江市の防災対策について」報告します。

1月6日に発生した地震で、松江市は震度5強を観測しました。樋野氏は「改めて災害への備えの重要性を認識した」として「指定避難所を中心と



樋野伸一
市議会議員

①松江市の指定避難所225施設について最大収容人数をどの程度想定し、ベッドやパーティションの確保や備蓄食料は十分か現在の状況。

佐野みどり市議 一般質問② 生活道路や通学路の安全に十分な予算を

佐野みどり市議の2月議会一般質問の内「生活道路の問題と通学路の安全確保について」を報告します。

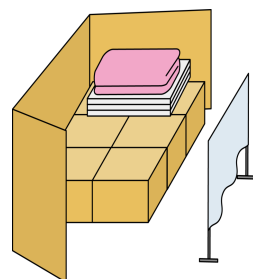
市民からは「近年、横断歩道や停止線、中央線の薄れが目立ち、危険を感じる。生活道路の整備が遅れているのではないか」「地域や学校から



佐野みどり
市議会議員

井上雅雄都市整備部長は「市道2kmを2か月かけて一巡し、軽微なものはその場で修繕を行っている。市民からの年間千件の通報に対しては、速やかに対応できるように

数量904基、パーティションについては2443セットで備蓄計画を上回る数量を備蓄している」「備蓄食料については目標数量14万4600食に対し、14万1108食で今年度中には目標数量を達成する」「簡易トイレは、避難所数に応じた数量として480基を備蓄目標としている。現在の備蓄数量は111基と目標数には大幅な未達であるが順次整備を進める計画を立てている」と回答しました。



川上諭副教育長は「過去5年間の通学路要望対応率は91%、86%、65%、80%、71%で、優先順位を決めて順次対応がなされている。対応できない箇所については、改めて交通安全指導を行うなど、安全確保に努めている」と答えました。

佐野市議は「要望に十分こたえられないのは、道路の維持や修繕、通学路の安全確保に必要な予算が十分に確保されていないのではないかと訴え、改めて必要な予算の確保を求めました。」